

## 非行少年の対人態度に関する研究（その1）

矯正協会附属中央研究所 大川 力  
濱井 郁子  
東京矯正管区 中島千加子\*

キーワード：ソーシャルサポート，社会的スキル，孤独感尺度

### 1 はじめに

最近の少年非行では、表向きには特段の問題のない家庭環境で生育した少年の凶悪な事件がマスコミで次々に報じられており、少年非行についてのこれまでの研究からは了解しがたいケースが多いような印象を受ける。その一方で、実際に個々の非行少年に当たった経験では、彼らの希薄な対人関係と、ごく身近な人たちからもありのままの自分を受け入れてもらえていない内面の寂しさや、他者への漠然とした不信感などが推測できることがよくある。

本研究では、非行少年が身近な人たちを自分にとってどういう人と認知しているか、他者とどう関わり、自分の存在をどこに位置付けているか、といった点に焦点を当て、非行少年の対人態度の特質を調べ、非行性との関連について検討を加える。

### 2 方法

#### (1) 調査対象者

全国の少年鑑別所に平成11年10月下旬から12月初旬までの間に観護措置決定により入所した者で、1,851名の調査票が得られたが、そのうち未記入の部分が多い調査票を除外し、

合計1,846名（男子1,653名，女子193名）を分析の対象とした。

#### (2) 調査内容

少年用と職員用の2種類がある。

職員用調査票 次の19項目について鑑別担当職員に記入を依頼した。

- ① 年齢
- ② 性別
- ③ 入所回数
- ④ 知能偏差値
- ⑤ これまでに補導された時の非行名
- ⑥ 本件共犯者数
- ⑦ 本件共犯役割
- ⑧ 不良集団所属歴
- ⑨ 在宅保護歴
- ⑩ 非行初発年齢
- ⑪ 保護施設・刑事処分歴
- ⑫ 薬物使用経験
- ⑬ 文身
- ⑭ 最終学歴
- ⑮ 養育者
- ⑯ 養育者の安定度
- ⑰ 現在の保護者
- ⑱ 法務省式人格目録（M J P I）
- ⑲ 法務省式態度検査（M J A T）

少年用調査票 次の3種類で構成されている。

\*現愛光女子学園

### A ソーシャルサポート尺度

久田ら（1989）の学生用尺度をもとに、岡安ら（1993）が中学生用として作成したもので、周囲の人がふだんから自分のことを大切に思ったり、助けてくれたりすることを期待できるかどうかについての認知を見るものである。今回の調査では次の6場面を設定した。

- ア あなたが何か失敗しても、そっと助けてくれる。
- イ あなたが悩みや不満をぶちまけても、嫌な顔をしないで聞いてくれる。
- ウ あなたが元気がないと、すぐ気づいて、はげましてくれる。
- エ あなたの良いところも悪いところもよく分かってくれている。
- オ いつでもあなたのことを信じてくれる。
- カ あなたに何かうれしいことがあった時に、それを自分のことのように喜んでくれる。

また、サポートしてくれる人として、「お父さん」「お母さん」「学校の先生・職場の上司」「同性の友だち」「異性の友だち」の5つを設定した。なお、先生・上司については、現在学校に行っている場合は先生を、仕事をしている場合は職場の上司について記入させた。なお、該当する人がいない場合は「いない」と回答させた。

回答は、「きっとそうしてくれる」「たぶんそうしてくれる」「たぶんちがう」「ぜったいちがう」の4つの中から1つを選択させた。

### B 社会的スキル尺度

菊地（1988）によるもので、対人関係を円滑にするために役立つとされる具体的な行動パターンをどのくらい身につけているかを測定する尺度である。「初めて会った人に、上手に自己紹介することができる」など、18の項目から成っている。回答は、「そのとおри」「まあそのとおり」「どちらともいえない」「すこしちがう」「ちがう」の5つから選

ようになっている。なお、一部理解が難しいと思われる質問は、内容を変えない程度に表現を改めた。

### C LSO（孤独感尺度）

落合（1983）によるもので、「人間は他人の喜びや悲しみを一緒に味わうことができると思う」、「私の人生と同じ人生は、過去にも未来にもないと思う」など、自分が関わっている人との間に理解や共感が得られると感じているかどうか（第1尺度）、自分のことを他人とは代わることができない個別の存在であることに気づいているか（第2尺度）の2つの視点を含んだ16の質問から成っている。回答は「そのとおり」「まあそのとおり」「どちらともいえない」「すこしちがう」「ちがう」の5つの選択肢から1つを選ぶようになっていて、第1尺度で得点が高いことは、他人と理解できると考えていることであり、第2尺度で得点が高いことは、自分の個別性に気づいているということである。この2つの尺度の組み合わせによって、4つのタイプへの類型化を試みている。

## 3 結果

### (1) 調査対象者の特性

#### ア 性別・年齢

対象者の性別・年齢別の構成は表1のとおりである。以後年齢については必要に応じて、年少群（14, 15歳）、中間群（16, 17歳）、年長群（18, 19歳）の3群に分けて分析する。

表1 対象者の性別・年齢別構成

年齢	男	(%)	女	(%)
14歳	86	(5.2)	24	(12.4)
15歳	195	(11.8)	43	(22.3)
16歳	326	(19.7)	35	(18.1)
17歳	365	(22.1)	29	(15.0)
18歳	348	(21.1)	31	(16.1)
19歳	333	(20.1)	31	(16.1)
計	1,653	(100.0)	193	(100.0)

表2 補導歴（罪種別・年齢層別）（%）

性別	年齢層	人員	財産犯		粗暴犯		凶悪犯		性 犯		薬物犯		交通犯		ぐ犯	
			あり	うち単一	あり	うち単一	あり	うち単一	あり	うち単一	あり	うち単一	あり	うち単一	あり	うち単一
男子	年少群	281	60.9	25.6	47.7	22.4	1.8	1.1	2.1	1.8	4.3	0.4	18.1	2.1	11.7	6.4
	中間群	691	58.8	17.7	43.8	13.9	6.8	2.7	3.2	1.2	10.7	1.7	42.4	9.8	3.2	-
	年長群	681	53.7	15.9	40.5	11.5	6.0	2.8	4.7	1.9	18.8	3.2	46.7	12.2	2.3	0.1
	計	1,653	57.0	18.3	43.1	14.3	5.6	2.5	3.6	1.6	12.9	2.1	40.0	9.5	4.3	1.5
女子	年少群	67	32.8	13.4	23.9	7.5	6.0	3.0	-	-	23.9	10.4	6.0	-	38.8	29.9
	中間群	64	31.3	10.9	43.8	23.4	3.1	1.6	-	-	37.5	17.2	12.5	-	21.9	12.5
	年長群	62	29.0	19.4	29.0	16.1	1.6	1.6	-	-	51.6	33.9	17.7	1.6	3.2	-
	計	193	31.1	14.5	32.1	15.5	3.6	2.1	-	-	37.0	20.2	11.9	0.5	21.8	14.5

（注）「単一」とは、非行がその罪種のみのものである。

イ 補導歴（種別）

対象者の補導歴を罪種別・年齢層別にみたものが表2である。「あり」は当該罪種の補導歴がある者の割合であり、「うち単一」は、そのうち当該種別以外の罪種について補導歴がない者の割合である。

補導歴について、年齢群によって目立った差がある罪種は、男子では、薬物犯、交通犯、ぐ犯であり、薬物犯及び交通犯では、年齢が高くなるに従って率が高くなるが、ぐ犯では反対の傾向を示している。女子でも、薬物犯とぐ犯について男子と同様の傾向がみられる。また、全体として率の高い財産犯や粗暴犯では、単一が少なく、一人の少年が窃盗と恐喝を行っているような、非行の広がりがあることが読み取れる。

ウ 少年鑑別所入所回数

表3は、年齢群別の少年鑑別所への入所回数の分布である。今回の入所が1回目であった者の割合が男女ともにもっとも高い。男子は年齢が高くなるにつれて入所回数が多くなっているが、女子は中間群が年長群よりも再入が多くなっている。

(2) ソーシャルサポート尺度

ア 対象別・場面別肯定回答率

対象が「いない」と回答した人員を、年齢層別に示したのが表4である。父については

年少群では「いない」が30%近くであり、年齢が高くなるにつれ減少している。母についても父と同様の傾向を示しているが率は低い。女子の方は父が「いない」としているのが年少群で高率となっている。先生・上司については、年少群は大部分が中学生であるため、「いない」の率は低いが、中間群・年長群は男子で40%前後、女子で半数以上が「いない」としており、職業についていない者が多いことを示している。友だちは「いない」とするのは少ないが、異性の友だちについては、性別・年齢層別でやや異なった傾向を示している。

次に場面ごとに、「きっとそうしてくれる」と「たぶんそうしてくれる」の計を肯定回答とし、その人員を示したのが表5である。

「お父さん」に対しては、男子はどの場面

表3 性別・年齢層別の入所回数（%）

性別	年齢層	人員	1回	2回	3回以上
男子	年少群	281	89.3	8.5	2.1
	中間群	691	75.0	18.5	6.5
	年長群	681	69.0	18.4	12.6
	計	1,653	75.0	16.8	8.3
女子	年少群	67	85.1	13.4	1.5
	中間群	64	84.4	14.1	1.6
	年長群	62	85.5	11.3	3.2
	計	193	85.0	13.0	2.1

表4 対象別・年齢層別の「いない」の回答人員

	人員	父	母	先生・上司	同性の友人	異性の友人
男子 年少群	281	80 (28.5)	31 (11.0)	52 (18.5)	15 (5.3)	40 (14.2)
男子 中間群	691	153 (22.1)	69 (10.0)	291 (42.1)	48 (6.9)	107 (15.5)
男子 年長群	681	136 (20.0)	65 (9.5)	256 (37.6)	36 (5.3)	85 (12.5)
女子 年少群	67	21 (31.3)	5 (7.5)	13 (19.4)	1 (1.5)	7 (10.4)
女子 中間群	64	12 (18.8)	5 (7.8)	42 (65.6)	1 (1.6)	6 (9.4)
女子 年長群	62	11 (17.7)	5 (8.1)	34 (54.8)	2 (3.2)	9 (14.5)

(注) 括弧内は%である。

表5 場面別・対象別肯定回答の人員

	父	母	先生・上司	同性の友人	異性の友人
男子 「いる」の人員	1,286	1,489	1,056	1,556	1,422
失敗しても助けてくれる	1,089 (84.7)	1,365 (91.7)	876 (83.0)	1,348 (86.6)	1,197 (84.2)
悩みや不満をきいてくれる	1,080 (84.0)	1,355 (91.0)	822 (77.8)	1,423 (91.5)	1,295 (91.1)
元気がないと励ましてくれる	822 (63.9)	1,232 (82.7)	788 (74.6)	1,359 (87.3)	1,266 (89.0)
よく分かってくれている	1,075 (83.6)	1,370 (92.0)	700 (66.3)	1,317 (84.6)	1,121 (78.8)
いつでも信じてくれる	964 (75.0)	1,256 (84.4)	726 (68.8)	1,282 (82.4)	1,136 (79.9)
うれしい時喜んでくれる	965 (75.0)	1,286 (86.4)	620 (58.7)	1,137 (73.1)	1,091 (76.7)
女子 「いる」の人員	149	178	104	189	171
失敗しても助けてくれる	114 (76.5)	152 (85.4)	77 (74.0)	180 (95.2)	153 (89.5)
悩みや不満をきいてくれる	115 (77.2)	153 (86.0)	84 (80.8)	184 (97.4)	159 (93.0)
元気がないと励ましてくれる	94 (63.1)	138 (77.5)	73 (70.2)	177 (93.7)	158 (92.4)
よく分かってくれている	108 (72.5)	145 (81.5)	60 (57.7)	171 (90.5)	134 (78.4)
いつでも信じてくれる	95 (63.8)	130 (73.0)	57 (54.8)	164 (86.8)	141 (82.5)
うれしい時喜んでくれる	107 (71.8)	147 (82.6)	63 (60.6)	174 (92.1)	138 (80.7)

(注) 括弧内は%である。

でも肯定の方が多くなっており、父にサポートを期待していることを示している。場面別では「元気がないと、すぐ気づいてはげましてくれる」が他の場面に比べて肯定の率が低いのは、父との日常的に接触する機会が少ないことを示唆しているのかもしれない。女子も男子と同様の傾向を示しているが、肯定の率は男子より低い。

「お母さん」に対しては、男子はどの場面でも肯定の率が高く、また父より肯定の率が高く、父よりも母の方にサポートを期待していることを示している。女子も男子と同様の傾向を示しているが、父と同様肯定の率が男子より低くなっている。

「先生・上司」については、男子ではどの場面でも半数は超えているが、他の対象に比べて肯定の率が低くなっている。女子は半数近くが該当する人がいないとしており、また、該当する人がいる場合の肯定の率は、男子と同様全体としては肯定の方が多いが、父母の場合と違って場面による差が大きくなっている。

「同性の友だち」については、男子はどの場面でも肯定の率が高く、どの対象よりも高い率を示すのが多く、同性の友だちに対するサポートの期待が高いことを示している。特に「悩みや不安をぶちまけても、嫌な顔をしないで聞いてくれる」を肯定する率が高く、

表6 対象に対する態度の類型別人員

	父	母	先生・上司	同性の友人	異性の友人
男子 信 頼	638 (49.6)	1034 (69.4)	455 (43.1)	919 (59.1)	874 (61.5)
信 頼 優 位	364 (28.3)	288 (19.3)	287 (27.2)	415 (26.7)	307 (21.6)
葛 藤	94 (7.3)	68 (4.6)	114 (10.8)	100 (6.4)	94 (6.6)
不 信 優 位	129 (10.0)	70 (4.7)	138 (13.1)	92 (5.9)	116 (8.2)
不 信	59 (4.6)	28 (1.9)	60 (5.7)	28 (1.8)	30 (2.1)
そ の 他	2 (0.2)	1 (0.1)	2 (0.2)	2 (0.1)	1 (0.1)
計	1,286 (100.0)	1,489 (100.0)	1,056 (100.0)	1,556 (100.0)	1,422 (100.0)
女子 信 頼	62 (41.6)	101 (56.7)	36 (34.6)	153 (81.0)	113 (66.1)
信 頼 優 位	41 (27.5)	43 (24.2)	32 (30.8)	23 (12.2)	31 (18.1)
葛 藤	12 (8.1)	12 (6.7)	7 (6.7)	8 (4.2)	17 (9.9)
不 信 優 位	21 (14.1)	11 (6.2)	21 (20.2)	3 (1.6)	7 (4.1)
不 信	13 (8.7)	11 (6.2)	8 (7.7)	2 (1.1)	3 (1.8)
そ の 他	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
計	149 (100.0)	178 (100.0)	104 (100.0)	189 (100.0)	171 (100.0)

(注) 括弧内は%である。

不満の発散や相談相手として同性の友だちに期待していることを示している。女子も肯定の率がどの場面でも高くなっており、父よりも同性の友だちのサポートに期待していることを示している。

「異性の友だち」については、男子はどの場面でも肯定の率が高い。また、全体の傾向として母よりは低いが、父よりは高くなっており、父よりも異性の友だちの方を頼りにしていることを示唆している。また、同性の友だちと比較すると、どの場面でも同性の友だちの方が肯定の率が高い。女子は同性の友だちよりは低くなっているが、父よりは高くなっており、親よりも異性の友人の方にサポートを期待していることを示唆している。

イ 対象に対する態度

対象に対する態度をみるため、6場面を通じての回答から、次のように類型を設定した。ただし、場面の半数以上が無回答の場合は除外した。

信 頼 群：6場面の回答がすべて肯定であるもの

信 頼 優 位 群：肯定の場面数が否定の場面数より多いもの

葛 藤 群：肯定と否定が共に3場面であるもの

不 信 優 位 群：否定の場面数が肯定の場面数より多いもの

不 信 群：6場面の回答が全て否定であるもの

この類型別の人員は表6のとおりである。まず男子についてみると、父と先生・上司を除きどの対象も信頼群が半数を超えているが、率の高い方から母、異性の友だち、同性の友だち、父、先生・上司の順になっており、信頼優位群を加えても同じ結果となっている。特に、父より友だちの方が高くなっていることが注目される。また、不信群はどれも率としては低いが、先生・上司と父がやや多い。ただ信頼群と信頼優位群を合わせれば、どれも70%を超えており、全体としてはどの対象にもサポートが期待できるとする者が多いことを示している。

次に女子についてみると、信頼群は率の高い方から、同性の友だち、異性の友だち、母、父、先生・上司となっており、親よりも友達の方にサポートを求めていることがうかがわれる。一方不信と不信優位を合わせると、先

生・上司は30%近くであり、父も20%を超えていることが注目される。このように女子の場合は、親よりも友だちの方により多くのサポートを期待していることがうかがわれる。

### (3) 社会的スキル尺度

社会的スキル尺度18項目について、回答の分布を示したのが表7である。「そのとおり」と「まあそのとおり」を合わせて「肯定」、

表7 社会的スキル項目別回答分布 (%)

男子 (1,653名)	質問項目	そのとおり	まあそのとおり	どちらともいえない	すこしちがう	ちがう	無回答
1	人と話しているとき、話が途切れることはあまりない	19.9	33.4	28.7	12.8	5.1	0.0
②	人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない	14.6	30.0	20.8	21.8	12.6	0.2
3	私は人を助けていくことが上手だ	8.4	24.6	48.7	13.4	4.7	0.1
4	相手が怒っているときに、うまくなだめることができる	18.3	38.1	28.0	10.3	5.1	0.1
5	知らない人とでも、すぐに話が始められる	28.7	28.3	17.7	14.6	10.6	0.1
6	まわりの人たちとの間で行き違いがあっても、うまく片付けられる	11.7	31.0	37.8	14.8	4.7	0.1
⑦	怖いことや恐ろしいことがあると、どうしたらいいか分からなくなってしまう	13.9	23.6	23.1	24.3	15.1	0.1
8	気まずいことがあった相手とも、うまくやっつけていける	20.8	31.3	27.0	13.9	6.8	0.2
⑨	仕事をするとき、なにをどうしたらいいか分からなくなってしまう	18.6	25.7	21.4	21.5	12.5	0.3
⑩	人が話している中には、気楽に入っていけない	10.3	18.6	23.7	25.2	22.0	0.2
11	相手から文句を言われても、それをうまく切り抜けることができる	15.6	26.9	30.9	17.2	9.2	0.1
12	物事がうまくいかないとき、どこがまずかったかをすぐに見つけることができる	12.6	31.3	31.4	18.9	5.7	0.2
13	自分の感情や気持ちを、そのまま表面に出せる	26.9	29.2	23.3	14.4	6.0	0.2
⑬	一つのことについて、相手によっていろいろ違ったことを言われると、どうしたらいいかわからなくなってしまう	15.2	24.3	28.9	20.9	10.5	0.3
15	初めて会った人に、上手に自己紹介することができる	22.1	27.2	24.2	18.6	7.7	0.1
16	何か失敗したときに、すぐにその場で謝ることができる	39.8	34.7	14.6	8.5	2.2	0.2
17	周りの人の考えと自分の考えが違っていても、うまく合わせていくことができる	20.7	37.4	28.3	9.8	3.7	0.1
18	自分だけで、仕事の目標が立てられる	29.5	28.7	25.5	11.4	4.8	0.1
女子 (193名)	質問項目	そのとおり	まあそのとおり	どちらともいえない	すこしちがう	ちがう	無回答
1	人と話しているとき、話が途切れることはあまりない	25.4	35.8	25.9	8.8	3.6	0.5
②	人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない	15.0	28.0	22.3	17.1	17.6	-
3	私は人を助けていくことが上手だ	7.3	16.6	60.6	11.4	4.1	-
4	相手が怒っているときに、うまくなだめることができる	15.0	35.8	32.1	8.8	8.3	-
5	知らない人とでも、すぐに話が始められる	34.2	28.0	17.1	9.8	10.4	0.5
6	まわりの人たちとの間で行き違いがあっても、うまく片付けられる	13.5	23.8	41.5	15.5	5.7	-
⑦	怖いことや恐ろしいことがあると、どうしたらいいか分からなくなってしまう	27.5	26.9	20.7	12.4	12.4	-
8	気まずいことがあった相手とも、うまくやっつけていける	22.8	31.1	24.4	11.9	9.8	-
⑨	仕事をするとき、なにをどうしたらいいか分からなくなってしまう	18.7	21.8	23.3	22.8	13.0	0.5
⑩	人が話している中には、気楽に入っていけない	13.0	15.5	22.8	22.8	25.9	-
11	相手から文句を言われても、それをうまく切り抜けることができる	20.7	22.3	29.0	15.5	11.9	0.5
12	物事がうまくいかないとき、どこがまずかったかをすぐに見つけることができる	11.4	23.3	36.3	17.1	11.9	-
13	自分の感情や気持ちを、そのまま表面に出せる	32.6	20.7	26.9	10.9	8.8	-
⑬	一つのことについて、相手によっていろいろ違ったことを言われると、どうしたらいいかわからなくなってしまう	22.8	23.8	22.3	15.5	15.5	-
15	初めて会った人に、上手に自己紹介することができる	22.8	31.6	24.9	12.4	8.3	-
16	何か失敗したときに、すぐにその場で謝ることができる	29.5	31.1	19.2	11.4	8.8	-
17	周りの人の考えと自分の考えが違っていても、うまく合わせていくことができる	19.2	33.2	30.6	9.3	7.8	-
18	自分だけで、仕事の目標が立てられる	25.4	25.4	33.2	8.8	7.3	-

(注) 項目番号が○で囲まれているのは逆転項目である

「ちがう」と「すこしちがう」を合わせて「否定」として特徴を拾い出してみると、次のとおりである。

①肯定か否定のどちらかが60%を超えており、回答の傾向が偏っている項目は、男子では、「何か失敗したときに、すぐその場で謝ることができる」の1項目である、女子では、「人と話しているとき、話がとぎれることはあまりない」、「知らない人とでもすぐに話が始められる」、「何か失敗したときに、すぐその場で謝ることができる」の3項目である。

②肯定と否定の差が10%以下と少ない項目は、男子では、「人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない」、「怖いことや恐ろしいことがあると、どうしたらいいか分からなくなってしまう」、「一つのことについて、相手によっていろいろ違ったことを言われると、どうしたらいいか分からなくなってしまう」の3項目で、女子では、「人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない」、「私は人を助けていくことが上手だ」、「仕事をするとき何をどうすればいいか分からなくなってしまう」、「物事がうまくいかないとき、どこがまずかったかをすぐに見つけることができる」の4項目となっている。

③「どちらでもない」が40%以上を占めているのは、男子で「私は人を助けていくことが上手だ」、女子では「私は人を助けていくことが上手だ」の外、「まわりの人たちとの間で行き違いがあっても、それをうまく切り抜けることができる」の2項目となっている。

④回答に性差が見られたのは、「私は人を助けていくことが上手だ」(女子で「どちらでもない」が多い)、「怖いことや恐ろしいことがあると、どうしたらいいか分からなくなってしまう」(女子で肯定が多い)、「物事がうまくいかないとき、どこがまずかったかをすぐに見つけることができる」(男子で肯定がやや多い)、「自分の感情や気持ちを、その

まま表面に出せる」(女子で否定がやや多い)、「一つのことについて、相手によっていろいろ違ったことを言われると、どうしたらいいか分からなくなってしまう」(女子で肯定がやや多い)、「何か失敗したときに、すぐその場で謝ることができる」(男子で肯定が多い)の6項目であった。

社会的スキル尺度の各項目の回答の「そのとおり」を5点、「まあそのとおり」を4点、「どちらともいえない」を3点、「すこしちがう」を2点、「ちがう」を1点(逆転項目では配点は逆になる)として項目別の得点を算出した。総合得点の幅は、18点から90点であり、その平均値と標準偏差を性別、年齢群別に求め、男女ごとに一元配置の分散分析を行った結果が表8であり、男女ともに年齢による有意な差は認められなかった。また、性差も見られなかった。

#### (4) 孤独感尺度 (LSO)

最終的に2つの尺度の組み合わせによって4つのタイプに分けるように作られた尺度であるが、まずここでは、それぞれの因子について検討し、その特徴をとらえてみる。

##### ア 共感や理解の確信 (第1尺度)

他人と共感・理解しあえると感じているかについての尺度であり、9項目から成っている。回答の分布は、表9のとおりであり、すべての項目で、共感・理解ができるといった反応が男女ともに多くなっている。特に、「真

表8 社会的スキル尺度得点

性別	年齢群	人員	平均	SD
男子	年少群	281	59.52	9.50
	中間群	691	60.98	10.00
	年長群	681	60.10	10.42
	計	1,653	60.37	10.11
女子	年少群	67	59.52	9.57
	中間群	64	59.88	9.47
	年長群	62	58.07	9.49
	計	193	59.17	9.49

表9 孤独感「共感・理解」尺度項目別回答分布 (%)

男子 (1,653名)

項目番号	質問項目	そのとおり	まあそのとおり	どちらともいえない	すこしちがう	ちがう	無回答
①	真剣に私の相談に乗ってくれる人はいないと思う	2.2	2.8	6.8	12.2	75.8	0.2
2	人間は、他人の喜びや悩みを一緒に味わうことができると思う。	56.6	22.1	12.0	5.5	3.4	0.3
3	私のことを周りの人は理解してくれていると、私は感じている。	26.0	31.9	29.0	8.2	4.6	0.3
4	私は、私の生き方をだれかが理解してくれと信じている。	32.5	28.3	25.8	7.9	5.4	0.2
6	自分の考えや気持ちを何人かの人はわかってくれると思う。	53.5	31.9	10.5	2.0	1.8	0.2
⑦	私の考えや気持ちをだれも分かってくれないと思う。	1.9	3.0	9.6	24.9	60.4	0.2
⑩	私の生き方をだれもわかってくれないと思う。	2.8	3.6	14.2	24.6	54.7	0.2
⑬	だれも私のことを分かってくれないと、私は感じている。	1.8	3.2	12.2	24.9	57.7	0.2
15	人間は、互いに相手の気持ちを分かり合えると思う。	61.1	25.8	9.3	2.2	1.3	0.2

女子 (193名)

項目番号	質問項目	そのとおり	まあそのとおり	どちらともいえない	すこしちがう	ちがう	無回答
①	真剣に私の相談に乗ってくれる人はいないと思う	2.6	2.6	3.1	14.0	77.2	0.5
2	人間は、他人の喜びや悩みを一緒に味わうことができると思う。	56.5	23.8	10.4	5.2	3.6	0.5
3	私のことを周りの人は理解してくれていると、私は感じている。	26.9	26.9	35.2	7.8	2.6	0.5
4	私は、私の生き方をだれかが理解してくれと信じている。	36.8	24.9	26.9	4.7	6.2	0.5
6	自分の考えや気持ちを何人かの人はわかってくれると思う。	55.4	31.6	10.4	1.6	0.5	0.5
⑦	私の考えや気持ちをだれも分かってくれないと思う。	1.6	5.7	9.3	17.1	65.8	0.5
⑩	私の生き方をだれもわかってくれないと思う。	1.6	2.6	19.2	17.1	59.1	0.5
⑬	だれも私のことを分かってくれないと、私は感じている。	2.1	3.6	12.4	21.2	60.1	0.5
15	人間は、互いに相手の気持ちを分かり合えると思う。	60.1	23.3	10.4	4.1	1.6	0.5

(注) 項目番号が○で囲まれているのは逆転項目である

表10 孤独感「共感・理解」項目別得点

項目番号	質問項目	計		年少群		中間群		年長群		F値 多重比較
		有効回答数	平均点 S.D.	有効回答数	平均点 S.D.	有効回答数	平均点 S.D.	有効回答数	平均点 S.D.	
①	真剣に私の相談に乗ってくれる人 いないと思う	男(1,649) 女(192)	4.57 0.90 4.61 0.88	男(278) 女(66)	4.54 0.91 4.61 0.86	男(690) 女(64)	4.57 0.89 4.52 1.02	男(681) 女(62)	4.58 0.90 4.73 0.63	
2	人間は、他人の喜びや悩みを一緒に 味わうことができる	男(1,648) 女(192)	4.23 1.08 4.25 1.07	男(277) 女(66)	4.10 1.14 4.27 1.12	男(691) 女(64)	4.21 1.13 4.11 1.09	男(681) 女(62)	4.31 1.00 4.37 1.01	4.161 年少×年長
3	私のことを周りの人は理解してく ていると、私は感じている	男(1,648) 女(192)	3.67 1.09 3.68 1.04	男(277) 女(66)	3.72 1.12 3.65 1.06	男(690) 女(64)	3.67 1.10 3.64 0.96	男(681) 女(62)	3.64 1.13 3.76 1.11	
4	私は、私の生き方をだれかが理解し てくれていると信じている	男(1,649) 女(192)	3.75 1.15 3.82 1.17	男(278) 女(66)	3.64 1.18 3.74 1.24	男(690) 女(64)	3.80 1.13 3.66 1.17	男(681) 女(62)	3.74 1.16 4.06 1.05	
6	自分の考えや気持ちを何人かの 人分かってくれると思う	男(1,650) 女(192)	4.34 0.88 4.41 0.78	男(278) 女(66)	4.34 0.95 4.45 0.81	男(691) 女(64)	4.35 0.86 4.34 0.80	男(681) 女(62)	4.32 0.87 4.42 0.74	
⑦	自分の考えや気持ちをだれも分か てくれないと思う	男(1,649) 女(192)	4.39 0.92 4.41 0.98	男(277) 女(66)	4.34 1.00 4.44 0.98	男(691) 女(64)	4.37 0.91 4.34 1.09	男(681) 女(62)	4.43 0.89 4.44 0.88	
⑩	私の生き方をだれも分かってくれ ないと思う	男(1,650) 女(192)	4.25 1.01 4.30 0.97	男(278) 女(66)	4.21 1.02 4.44 0.68	男(691) 女(64)	4.27 0.99 4.34 1.09	男(681) 女(62)	4.25 1.03 4.44 0.88	
⑬	だれも私のことを分かってくれな い、私は感じている	男(1,650) 女(192)	4.34 0.94 4.21 0.97	男(278) 女(66)	4.38 0.94 4.47 0.95	男(691) 女(64)	4.29 0.98 4.23 1.00	男(681) 女(62)	4.37 0.89 4.32 0.97	
15	人間は、互いに相手の気持ちを分か り合えると思う	男(1,649) 女(192)	4.43 0.85 4.37 0.94	男(278) 女(66)	4.42 0.90 4.38 0.96	男(690) 女(64)	4.43 0.86 4.30 0.97	男(681) 女(62)	4.44 0.83 4.44 0.90	

(注) 項目番号が○で囲まれているのは逆転項目である。

剣に私の相談に乗ってくれる人はいないと思う」の項目では、男女とも75%以上が「ちがう」と回答し、「人間は、互いに相手の気持ちを分かり合えると思う」の項目にも、男女

ともに60%が「そのとおり」を選択しているなど、共感や理解に対しての強い期待がうかがえる。

次に、「そのとおり」を5点、「まあその



とおりを4点、「どちらとも言えない」を3点、「すこしちがう」を2点、「ちがう」を1点（逆転項目では配点が逆になる）として、得点を算出した。その点数を各項目ごとに見たものが、表10であり、平均点は男女ともに、3点から4点で、高い方に偏っていることが、この表からも見て取れる。年齢層での比較（一元配置の分散分析）においては、「人間は他人の喜びや悩みを一緒に味わうことができると思う」という項目で、男子の年長群が年少群よりも有意に高い値を示したほかは、差が見られなかった。

総合得点については、男女別に見ると、表11のとおりであり、性差は見られない。また、年齢層別でも有意な差は見られなかった。

イ 自分の個別性に関する認知（第2尺度）

自分が他人に取って代わることのできない存在であるという個別性に気づいているかという視点から作られた尺度である。点数が高いほど、自己の存在に目を向け、他人とは違う自分の存在を感じていると考えられている。項目ごとにその回答分布をみると(表12),「ちがう」の回答が多かったのは、「結局自分は一人でしかないと思う」、「人間は、もともとひとりぼっちなのだと思う」、「結局、人間は一人で生きる運命にあるのだと思う」の3項目で、「そのとおり」の回答が多かったの

は、「自分の問題は、最後は、自分で解決しなくてはならないのだと思う」、「私とまったく同じ考えや感じ方をする人が必ずどこかにいると思う」（逆転項目）の2つであった。このことから、「自分の問題は、最後は、自分で解決しなくてはならないのだと思う」の項目は、この尺度の他の質問と回答の傾向が逆になる傾向が見られた。

これら7項目の構造を確かめるために、因子分析を行ったところ、3因子が取り出された(表13)。第1因子は、「結局、自分は一人でしかないと思う」、「人間はもともと一人ぼっちなのだと思う」、「結局、人間は一人で生きる運命にあるのだと思う」という「根源的な孤独感」とでも名づけられるもの、第2因子は、「私とまったく同じ考えや感じ方をする人が、必ずどこかにいると思う」（逆転項目）、「私の人生と同じ人生は、過去にも未来にもないと思う」の2項目に負荷の高い「唯一無二の存在としての自分」というもの、第3因子は、「自分の問題は、最後は自分で解決しなければならないのだと思う」、「どんなに親しい人も、結局、自分とは別の人間であると思う」の2項目に負荷が高い「自己責任」といえそうな因子であった。これら3つの因子から成る「自分が他人とは違い、自己責任を負っている唯一の存在であるとい

表11 孤独感「共感・理解」尺度得点の性別、年齢層別比較

性別

	人数	平均値	標準偏差
男子	1,642	37.98	5.98
女子	192	38.19	5.55

年齢群別

	年少群			中間群			年長群		
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差
男子	275	37.77	6.25	687	37.98	6.03	680	38.08	5.82
女子	66	38.33	6.25	64	37.41	5.62	62	38.85	4.58

表12 孤独感「個別性」尺度項目別回答分布 (%)

男子 (1,653名)

項目番号	質問項目	そのとおり	まあそのとおり	どちらとも言えない	すこしちがう	ちがう	無回答
5	結局、自分は一人でしかないと思う。	8.2	6.1	16.2	18.5	50.5	0.5
8	自分の問題は、最後は、自分で解決しなくてはならないのだと思う。	63.6	22.0	7.6	4.9	1.8	0.2
9	人間は、もともと一人ぼっちなのだと思う。	6.5	4.6	12.6	16.4	59.6	0.3
11	結局、人間は一人で生きる運命にあると思う。	4.2	2.9	8.5	17.5	66.7	0.2
⑫	私と全く同じ考えや感じ方をする人が、必ずどこかにいると思う。	49.2	22.6	17.4	5.0	5.4	0.4
13	私の人生と同じ人生は、過去にも未来にもないと思う。	29.8	10.3	32.1	11.6	15.8	0.4
16	どんなに親しい人も、結局、自分とは別の人間であると思う。	28.7	20.3	19.4	14.2	16.9	0.4

女子 (193名)

項目番号	質問項目	そのとおり	まあそのとおり	どちらとも言えない	すこしちがう	ちがう	無回答
5	結局、自分は一人でしかないと思う。	10.9	13.0	21.8	12.4	40.9	1.0
8	自分の問題は、最後は、自分で解決しなくてはならないのだと思う。	68.4	22.3	4.1	2.6	2.1	0.5
9	人間は、もともと一人ぼっちなのだと思う。	11.9	9.3	17.6	12.4	48.2	0.5
11	結局、人間は一人で生きる運命にあると思う。	6.7	4.7	13.0	19.7	55.4	0.5
⑫	私と全く同じ考えや感じ方をする人が、必ずどこかにいると思う。	45.6	23.8	20.2	2.6	7.3	0.5
13	私の人生と同じ人生は、過去にも未来にもないと思う。	30.6	9.3	35.8	8.3	14.5	1.6
16	どんなに親しい人も、結局、自分とは別の人間であると思う。	33.7	22.8	17.1	13.5	11.9	1.0

(注) 項目番号が○で囲まれているのは逆転項目である。

表13 孤独感「個別性」の因子分析結果 (バリマックス回転後の因子負荷量)

項目番号	質問項目	第1因子	第2因子	第3因子
9	人間はもともと一人ぼっちなのだと思う	.824	.004	.083
11	結局、人間は一人で生きる運命にあると思う	.821	.003	-.053
5	結局、自分は一人でしかないと思う	.811	-.013	.106
⑫	私と全く同じ考えや感じ方をする人が、かならずどこかにいると思う	-.054	-.762	.187
13	私の人生と同じ人生は、過去にも未来にもないと思う	-.006	.756	.211
8	自分の問題は、最後は、じぶんで解決しなくてはならないのだと思う	-.011	-.087	.895
16	どんなに親しい人も、結局、自分とは別の人間であると思う	.365	.206	.454

(注) 項目番号が○で囲まれているのは逆転項目である。

う意識」というものを略して「個別性の認識」と名づけることにする。

尺度の点数は、「共感や理解の確信」尺度と同様であり、「そのとおりに」を5点、「まあそのとおりに」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「すこしちがう」を2点、「ちがう」を1点(逆転項目では配点が逆になる)として、得点を算出した。その平均点を各項目ごとに、性別、年齢層別で区切って見たものが、表14である。

先に述べたように、項目によって、ばらつきが大きく、取り得る値は1点から5点であるのに対し、4点台、最高では、4.70という値も出ている一方で、1点台の項目も少なくない。性差については、「結局、自分は一人でしかないと思う」、「人間はもともと一人ぼっちなのだと思う」、「結局、人間は一人で生きる運命にあると思う」の3項目で、女子が男子よりも有意(1%水準)に高い得点を示した。また、年齢差が見られた項目は男子の1項目のみであり、「自分の問題は、最後は、自分で解決しなくてはならないのだと思う」の項目で、年少群よりも年長群が1%水準で有意に高い得点を示していた。

総合得点については、性別、年齢群別にして、t-検定、一元配置の分散分析を行った結果が表15である。性差については、1%水準

で、女子が男子よりも有意に高い。また、女子は年齢層別の差も1%水準で有意であり、年少群がもっとも点数が低く、次いで中間群、もっとも高いのが年長群といったように、年齢が上がると得点も高くなる傾向が見られた。

ウ 孤独感の類型

落合(1999)は、前述のアとイの2つの尺度を縦軸と横軸にして、4つの類型に分類し、青年期の孤独感といったものをとらえている。それによると、

- A型 人と理解・共感できると考えているが、まだ個別性に気づいていない
- B型 人と理解・共感できないと考えていて、まだ個別性に気づいていない
- C型 人と理解・共感できないと考えていて、個別性には気づいている
- D型 人と理解・共感できると考えていて、個別性にも気づいている

のようになる(図1)。この類型についての発達的な変化については、中学2年生(13歳)、高校2年生(16歳)、大学2年生(19歳)、大学4年生(22歳)を対象にした調査では、A型は年齢とともに減っていく傾向があり、B型は年齢による変化はあまり見られず、C型は他の年齢に比べると高校生に多く見られ、D型は年齢が上がると増えるという。臨床的に、D型がもっとも成熟した望ましい型とさ

表14 孤独感「個別性」尺度得点

項目番号	質問項目	有効回答数			計平均点	SD	t値	有効回答数			年少群平均点	SD	有効回答数			中間群平均点	SD	有効回答数			年長群平均点	SD	F値多重比較
		男	女	合計				男	女	合計			男	女	合計			男	女	合計			
5	結局、自分は一人でしかないと思う。	男(1,645)	2.02	1.29	3.334**	男(275)	1.94	1.23	男(690)	2.04	1.42	男(690)	2.04	1.44	4.957**年少<年長								
		女(191)	2.40	1.41		女(65)	2.08	1.31	女(64)	2.77	1.42	女(62)	2.35	1.44									
8	自分の問題は、最後は、自分で解決しなくてはならないのだと思う。	男(1,650)	4.41	0.95	3.873**	男(278)	4.27	1.09	男(691)	4.40	0.95	男(691)	4.48	0.88									
		女(192)	4.53	0.86		女(66)	4.02	1.12	女(64)	4.70	0.63	女(62)	4.66	0.65									
9	人間は、もともと一人ぼっちなのだと思う。	男(1,648)	1.81	1.21	2.877**	男(277)	1.69	1.12	男(691)	1.84	1.22	男(690)	1.84	1.22									
		女(192)	2.24	1.44		女(66)	1.88	1.28	女(64)	2.31	1.44	女(62)	2.55	1.53									
11	結局、人間は一人で生きる運命にあると思う。	男(1,649)	1.60	1.04	2.877**	男(278)	1.64	1.07	男(691)	1.61	1.02	男(690)	1.58	1.05									
		女(192)	1.87	1.21		女(66)	1.65	1.06	女(64)	1.91	1.16	女(62)	2.06	1.39									
12	私と全く同じ考えや感じ方をする人が、必ずどこかにいると思う。	男(1,647)	1.94	1.16	2.877**	男(278)	1.94	1.15	男(691)	1.92	1.15	男(688)	1.97	1.19									
		女(192)	2.02	1.20		女(66)	1.89	1.18	女(64)	2.13	1.29	女(62)	2.03	1.12									
13	私の人生と同じ人生は、過去にも未来にもないと思う。	男(1,647)	3.27	1.41	3.873**	男(278)	3.26	1.36	男(689)	3.33	1.36	男(691)	3.21	1.47									
		女(190)	3.34	1.38		女(65)	3.25	1.30	女(64)	3.38	1.41	女(61)	3.39	1.45									
16	どんなに親しい人も、結局、自分とは別の人間であると思う。	男(1,646)	3.30	1.45	3.873**	男(275)	3.13	1.49	男(690)	3.32	1.42	男(691)	3.35	1.45									
		女(191)	3.53	1.39		女(65)	3.28	1.39	女(64)	3.45	1.44	女(62)	3.89	1.29									

(注) 項目番号に○がついているのは、逆転項目である  
 \*\*は1%水準、\*は5%水準で有意であることを示す。

表15 「個別性」尺度得点 性別、年齢別の比較

	人数	平均値	S D	t値
男子	1,632	18.36	4.58	4.566**
女子	189	19.95	4.67	

年齢群別	年少			中間			年長			F値 多重比較
	人数	平均値	S D	人数	平均値	S D	人数	平均値	S D	
男子	271	17.85	4.18	686	18.47	4.38	675	18.45	4.75	7.042** 年少<中間<年長
女子	64	18.23	4.14	64	20.64	4.75	61	21.02	4.66	

(注) \*\*は1%水準で有意であることを示す。

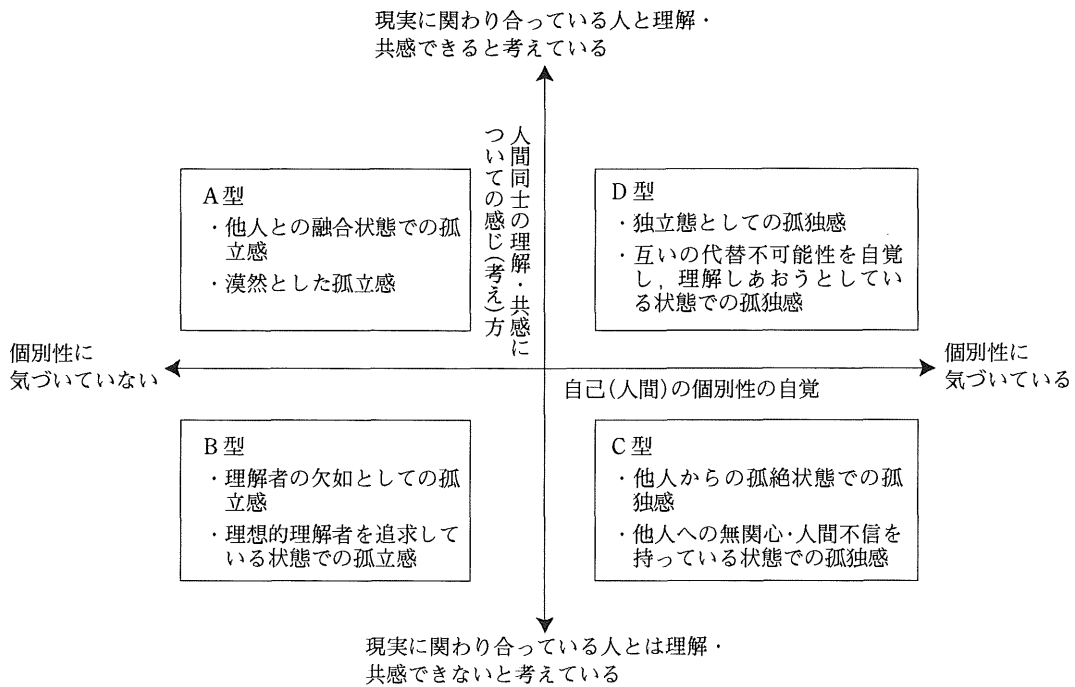


図1 孤独感の規定因の構造と4類型の特徴(落合による)

れている。

今回の結果を男女別に、この4類型に分類した結果が表16である。X軸が第2尺度、Y軸が第1尺度で、X軸とY軸が交わる点を(0, 0)となるように、これまで各項目に1点から5点を割り当てていたものを、-2点から+2点に振り替えた。第1尺度は9項目から成るため取りうる値は-18点から+18点、第2尺度は7項目から成るため-14点から+14点

の分布となる。第1尺度、第2尺度のいずれか、または両方が0という値をとることがあり、その場合はX軸上、Y軸上、または、(0, 0)となつて、4類型に当てはめることができないため「分類不能」とした。

この結果によると、男子では、全体として、Aタイプが圧倒的に多い。B、Cは非常に少なく、数%以内にとどまっている。年齢群間で、各類型の割合を比較してみると、年齢が

表16 孤独感類型

男子

類型	全体		年少群		中間群		年長群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
A	1,146	69.3	202	71.9	479	69.3	465	68.3
B	17	1.0	3	1.1	10	1.4	4	0.6
C	54	3.3	12	4.3	20	2.9	22	3.2
D	286	17.3	29	10.3	124	17.9	133	19.5
タイプなし	122	7.4	22	7.8	50	7.2	50	7.3
欠損値	28	1.7	13	4.6	8	1.2	7	1.0
計	1,653	100.0	281	100.0	691	100.0	681	100.0

女子

類型	全体		年少群		中間群		年長群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
A	103	53.4	45	67.2	29	45.3	29	46.8
B	1	0.5	—	—	1	1.6	—	—
C	5	2.6	2	3.0	2	3.1	1	1.6
D	63	32.6	11	16.4	26	40.6	26	41.9
タイプなし	17	8.8	6	9.0	6	9.4	5	8.1
欠損値	4	2.1	3	4.5	—	—	1	1.6
計	193	100.0	67	100.0	64	100	62	100.0

参考（落合による）

類型	16歳		19歳	
	人数	%	人数	%
A	100	32.3	41	13.0
B	49	15.8	40	12.7
C	47	15.2	31	9.8
D	114	36.8	204	64.6
タイプなし	—	—	—	—
計	310	100.0	316	100.0

高くなるとA型の割合が減少し、D型が増加する傾向がうかがわれる。女子でも、A型が多く、次いでD型となって、B、C型はほとんどないことは男子と同様であるが、男子ではどの年齢層も圧倒的にA型が多く、D型は10%台にとどまっているのに対し、女子では中間群、年長群でD型の占める割合が4割を超えて、年少群との間に分布の急激な変化が見られている。参考として下段にあげた一般学生のデータと比較すると、非行群ではA型が非常に多く、B型やC型及びD型が少ない。

#### 4 考察

社会的スキルについては、全体として比較的高得点が出されており、非行少年は社会スキルが乏しいという一般の仮説とは異なった結果が出ている。これには、一つには、非行少年には内省的な構えが乏しく、実際には対処できない問題についても、できていないことをしっかりと認識していないということもあろうし、また、現在少年鑑別所に収容中であるといった状況から、自分を良く見せたい

という構えで反応したという可能性もある。

そうした中でも、18の質問項目の回答傾向を細かく見ていくと、非行少年は場面による差が大きいことが見出せる。「何か失敗したときにすぐにその場で謝ること」という対人関係上の社会的スキルは、かなり容易なものとみなされた一方で、「私は人を助けていくことが上手だ」の項目には、「そのとおり」と回答する者が1割に満たず、非行少年には、適切に他者を援助することは難しいこととして認知されているようである。

また、年齢が高くなったり、社会的経験によったりして、社会的スキルが高まると一般には考えられているが、そうした傾向は見出せなかった。こうした点については、「年長群」は社会的スキルを身につけていないから、非行に走っていると解釈することも可能かもしれない。

ソーシャルサポートに関しては、全般的にみれば、周囲から援助を期待できるとする傾向が見られたが、その割合はサポートの対象や場面によってばらつきも大きい。教師や上司については、就学も就業もしていない少年には、もともとそうした存在自体がないなど、社会場面で関わりを持つ親以外の大人がいないという問題がその背後にある。また、親についても、父がいないと回答した少年は男女ともに年少群で30%近い。最も身近な権威者であり保護者である存在の欠如も目立っている。

サポートを期待する対象としては、男子では、母、同性の友人、異性の友人、父、教師及び上司の順であり、一方、女子では圧倒的に同性の友人が高率を示し、これに異性の友人、母、父、最後に教師・上司となっている。男女間の差については、男子の方が、全般に女子よりも周囲からのサポートをより多く期待していること、女子では親よりも友達の方により多くのサポートを期待していることが示された。

また、サポート場面については、「元気がないとすぐに気づいて励ましてくれる」の項目は、男女ともに父に対する肯定の率が低く、少年が父と日常的に接触する機会が少ないことが示唆され、物理的にも心理的にも父不在の家庭が少なくないものと思われる。

孤独感に関しては、「孤独感尺度」をなしている2つの因子について別々に見てみた。第1尺度の「他者と共感・理解できると感じているか」については、非行少年は全体としてかなり強く肯定する傾向が認められた。それが、実際の対人場面での実感からくるものか、願望を反映させたものなのかは、今後、「ソーシャルサポート」尺度との関係を見るなどして検討を加えていきたい。第2尺度の「自分が他人とは代わることができない存在であるという個別性を認識しているか」については、男女差があり、女子の方が男子よりも有意に高い得点を示した。また、女子については、年齢が上がるに従って得点が高くなることが示された。

さらに、孤独感を4類型に分類した結果では、一般の学生に比べて、非行少年では、4類型のうちでもっとも適応的と考えられている「D型」はやや少なく、人の中でにぎやかにして他人と融合している「A型」が多い。これは「D型」の意味する、自分の問題は最後には自分で引き受けるといった構えや自分が唯一無二の存在であるという認識に乏しいものと考えられる。

## 5 おわりに

今回の報告では、「社会的スキル」、「ソーシャルサポート」、「孤独感」といった尺度を別々に扱い、性別、年齢層別に分析を行ったが、次の報告においては、非行性との関係や尺度間関係に焦点をあて、より詳細に検討することとしたい。

## 参考文献

- 久田満・千田茂博・箕口雅博 1989 学生用  
ソーシャル・サポート尺度作成の試み（1）  
日本社会心理学会第30回大会発表論文集  
143-144
- 菊地章夫 1994 社会的スキルの心理学 川  
島書店
- 岡安孝弘・嶋田洋徳・坂野雄二 1993 中学  
生におけるソーシャル・サポートの学校ス  
トレス軽減効果 教育心理学研究41巻3号  
302-312
- 大川力・淵上康幸・門本泉 1998 非行少年  
の自己意識に関する研究（その1） 中央  
研究所紀要, 8, 63-78
- 落合良行 1983 孤独感の類型判別尺度（L  
SO）の作成 教育心理学研究, 30巻4号  
60-64
- 落合良行 1999 孤独な心 ー淋しい孤独感  
から明るい孤独感へー サイエンス社
- Rosenberg, M. 1965 Society and the  
adolescent self-image. Princeton Univ.  
Press.